
物に気持ち・心があったなら...

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

物に気持ち・心があったなら…

【コード】

N86580

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

何か意思の無い物の気持ちを詩や物語に出来たらと思っています。出来るだけ続けて行きたいと思っています。

最後のタバコ（前書き）

物に心がもしあったら…

最後のタバコ

真っ暗な空間で

たまにパッと明るくなると友が減る

真っ暗な空間で

だんだん友が減っていく

真っ暗な空間で

私の体は壁にぶつかり崩れていく

真っ暗な空間で

友が一人もいなくなった

真っ暗な空間で

私は次だと待っている

真っ暗な空間から

表に出たら明るかった

明るい空間で

私を口から大きく吸い込み

足に火を付けられた

体がだんだん縮んでいく

体がだんだん灰に変わっていく

そして私は水の中

頭を残して水の中

私はこれだけの為に生まれてきたのか

私の体は灰になった

私はもう誰にも相手にされない

ただのゴミ

缶ジュース

暗い入れ物の中に仲間と共にすし詰めになされてガタゴトとどこかに運ばれていく。

入れ物の蓋が開き、明るい外の世界が見えたと思ったら、何やら大きな鉄の塊の中に無造作に放り込まれていく。

「痛っ」「痛いって」仲間とぶつかり悲鳴をあげる。

そして、また真っ暗闇の中。時折ガタガタつと音が聞こえると体が下に一段下がる。その度に体をぶつけ「痛っ」と声が出る。

一体ここは何処なんだろう？これからどうなるんだろうか？不安だけが募っていく。

鉛筆

私を最後まで使って下さい

俺を折るんじゃない！

僕を乱暴に扱わないで

私が短くなったら捨てるのですか？

俺が何をした！簡単に折るんじゃない！

僕には書くしか出来ないでも、乱暴に扱わないで

私をきちんと最後まで使って下さい

俺を最後まで使いやがれ！

僕を最後まで使って下さい

私達、俺達、僕達は途中で短くなったからって捨てられるんじゃないんです最後まで使えるのです

最後まできちんと使って下さい

最後まで使いやがれ！

最後まで…使って…

消火器

オイラはいつでも、建物の端に置かれてる。

殆ど使われる事もない。一度も使われず、次のヤツと交代する事もしばしばだ。

オイラは、子供と大人の人気者。消防訓練などという時には、いろんなヤツに使われる。……でも、それは本当のオイラの役目じゃない。

オイラの役目は人命救助。炎を消し、火を消し命を助ける。……でも、古くなつたオイラ達は危険な存在らしい。爆発するんだと……。

オイラはいつでも、建物の端に置かれてる。見向きもされなければ、触られる事もない。

本当はそれが平和で良い事なのは分かってる。でも……何かさみしい。。。。

菊の花

お寿司の横にちよこんと乗ってる僕を君は何だと思っているんだい？

お寿司の横にちよこんと置かれている僕を君は何だと思っているんだい？

僕の名前は菊の花

しかも食べれる菊の花

食用の菊の花なんだ

君は何だと思っていたの？

僕はタンポポじゃあないよ

きっと君は僕の事をタンポポの花だと思ってる

きっと君は僕の事を食べる事の出来ない飾り物だと思ってる

僕の名前は菊の花

それも食べれる菊の花

タンポポじゃあないからね

僕はいつでもお寿司の横にちよこんと乗っている

僕はいつでもお寿司の横にちょこんと置かれている

そんな僕は食用の菊の花

運動靴

俺様の名前？

聞きたいか？

そんなに聞きたいか？

俺様の名前。

聞いて驚くなよ！

俺様の名前は運動靴だ！

たまに『スポーツシューズ』なんてイカした名前で呼んでくれる
ヤツらもいるけどよ！

どうだ！ 驚いただろ！

俺様は小学生と中学生の人気者だ！

皆、俺様を履きたがる。

そして、一番の見せ場が運動会。

ここで活躍しないで、どこで活躍しろって言うんだよ！

へっ！！ 見せてやるぜ！俺様の働きっぷり！

よし。次はリレーだな。見てろよ俺様の働きっぷりを！

……！って、おい……！

何故走る時に裸足で走るんだ！

俺様を脱ぐんじゃないやねえ！……って、おいってよ！

俺様は運動靴。

『スポーツシューズ』なんてイカした名前で呼ばれる事もある。

でも、結局は通学靴じゃねえかよ……！！

ハア……。溜め息が出るわ。

電話

最近は便利になったねえ。

一昔前までは、ダイヤルをジー、ジー、と回して話をしていただけだねえ。

最近じゃ、ワシで『いんたあねっと』と言われる物も見られないじゃないか。

昔は紙に文字を書いて手紙を送っていたが、最近じゃワシを使って『めえる』などという手紙も出せる。便利な世の中になったねえ。

ワシ？ ワシは電話じゃ。最近じゃ『てれふおんかあど』ってのも使わんらしい。

便利な世の中じゃ。便利な世の中じゃが、ワシの出番が多い分、何か物足りなさを感じるのは、ワシだけかのう？

スーパーの袋

私はスーパーマーケットのビニール袋。最近私に強敵が出現した。そいつの名前は『エコバッグ』だ。

私の役目は消費者共が買った物を入れる事と、もう一つ。ゴミ箱として使用される。

しかし強敵の出現、及び私を無料で配布せずにお金で売る店まで出てきやがった。

そんな訳で最近じゃ、滅法活躍の場が減っちゃった。

しかし！そんな事でめげる私ではない。

『……っっておばちゃん、それは無理や！入らへんて！破ける！破けるって言うてるやろ！』

扇風機

ビュンビュンと風を送って辺りを涼しくさせる。

あの馬鹿エアコンと違ってそんなに電気は食わないから皆の人気者ぞ。

ビュンビュンビュービューと風を送る。強くする？ 弱くする？
寝ている時には点いたり消えたりタイマーも勿論装備している
ぜ。

ビュンビュン！ ビュンビュン！ てな。気持ち良いかい？

おい！ ガキ！ 声が震えるのがそんなに面白いか？ 「わ・れ・
わ・れ・は・う・ちゅ・う・じ・ん・だ」じゃねえよ。

っておい！ そんなに無理矢理、首回したら潰れる！ 潰れるっ
て！

アナログTV

「あゝあ。そろそろ、俺達の時代も終わりかあ」

「しょうがないよ。映らなくなるんだもん」

「でもよお。ゲームしたり、ビデオ見たり、出来るんだぞお」

「ビデオって古くない？ 今はDVDかブルーレイじゃないの？」

「そんな事どっちでもいいわい！ 俺が言いたいのは、まだ使いたい用途はあるって事なんだよ！」

「分かってるよ。でも、やっぱり、しょうがないよね。デジタル放送の時代が来るんだもの」

「だからってよお！ 使える物をよお！」

「それは、よく分かるよ。でも、時代なんだよ時代。しょうがないよ」

「お前、よく割り切れるよなあ。俺もお前みたいに考えねえといけねえのかなあ」

「ほらほら、クヨクヨしないで。まだあと少しあるよ。あと少し頑張ろう！ ね！」

「本当に今、エコの時代なのかよ！」

「うっ！ それはかなり言えてるかも……」

「……」

「……」

「まあ、なんだ！ 頑張れよ！ デジタル！」

「それしか、今の僕達には言う事ないしね……」

虫歯

この稼業は止められないぜ！ いくらでも飯がやってくる。ほら、あそこにも！ ほら、そこにも！ てなっ！ アッハッハッハッ！

でも……、うわぁ！ それは止めてくれ！ 死ぬ死んじまう！

頼むから飯の宝庫をゴシゴシするのは、止めてくれ！ その成分は、俺らには毒なんだ！ ひい！ し、死ぬう！

でも、ガキンちよ共は磨きがあまい！ ほら、その隙間に飯発見！ ほら、あそこにも！ ほら、ここにもってよ！ アッハッハッハッハッ！

でも、歯医者だけには行かないでえ！ イヤア！ 殺される！

住処が無くなるう！

ボーリングのピン

真つ暗闇をゴロゴロと転がされ、頭を無理矢理掴まれたと思うと、平らな所に置かれる

真つ暗闇をゴロゴロと転がされている間、周りから『ぎゃあ！』とか『痛い！』とか『死ぬう！』とか悲壮な絶叫が聞こえてくる

そして、平らな所に置かれて目の前が明るくなった途端！ 遠くの方から大きな玉がぶつかってきた。

僕には当たらなかったが、隣の子が『痛い！』とか『うぎゃあ！』と声を挙げて真後ろの真つ暗闇に消えていく。

それもつかの間、僕に目掛けて玉が激突！ 『痛えっ！』と声を挙げ僕も真つ暗闇の中へ

そしてまた、真つ暗闇の中を転がされて、頭を掴まれたと思うと、また平らな所に置かれる

もう同じ苦しみを何千回、何万回と繰り返している

いつになったら、この苦しみから解放されるのだろう……

ゴミ

私達はただのゴミ。あるモノはタバコの吸い殻。あるモノはジュースの空き缶。あるモノは雑誌。あるモノはパンの袋と様々だけど、集約するとただのゴミ。

でも、私達はただのゴミじゃ無い。『ポイ捨てゴミ』と呼ばれる嫌われモノ達……。

人間はひどい生き物だ。私達を必要な時だけ使用して、いらなくなったらゴミ箱に入れてくれたらいいのに、道端にポイツと捨てていく。

あんなに大事にされたのに。あんなに美味しそうに食べていたのに。あんなに美味しそうに飲んでいたのに。残ったカスはポイツと捨てる。

おかげでこちらは皆の嫌われモノ。道端で腐って、グチャグチャになって、踏みつけられて、誰も拾ってゴミ箱に入れてくれない。

私達だって、リサイクル資源なんだよ！ っていくら叫んでも、人間は見向きもしない。勝手過ぎるよ人間は……。

私達だって好きで『ポイ捨てゴミ』やってるんじゃないのにさ……。

そうじゃない……？

どう……思う……？

証明写真ボックス

スーパーなんかの外の隅っこに俺はちょこんと置かれてる。

あまり人は近付いて来ないが、時々スーツ姿の男女が立ち寄っていく。

いつもは人気もないくせに、1月か2月の頃になると何故だか人気者。

多くのスーツ姿の男女が、俺の中に入ったり出たりを繰り返す。

皆、神妙な面持ちで写真を眺めながら去っていく。

時々、ちびっこがやって来て、「これ、可愛くない!」とか言うて去っていく。

『俺はプリクラじゃねえ!』

『そんなに可愛い写真取りたけりゃ、ゲームセンターにでも行きやがれ!』てんだ。

エアコン

俺は馬鹿の一つ覚えのように風ばかりを出すアイツとは違う

寒い時には部屋の中を温め、暑い時には部屋の中を涼しくする

馬鹿の一つ覚えの扇風機は俺を電気代のかかる馬鹿やろう扱いるが

期間限定のテメエと違って、俺は場合によりオールシーズン使用可能だ

湿度の高い時には除湿ドライも使えるし、ただ風を送り、空気の循環を行いたい時には送風だって使える

電気代を食うだけと罵るあの馬鹿扇風機

お前だけには馬鹿にされたくねえっつーんだよ!!!

闇

私は太陽や光の下では生きられない

いつも人や物の陰に潜み、太陽が沈んだ後、活動を開始する

私は闇

光と対を成す存在

光の中において私の存在は許されない

人や物の陰に潜む事だけを許されている

しかし、太陽が沈むと私の世界が変わる

世界に人は光をもたらそうとするが、太陽の光に比べれば恐れるに足りん

夜は闇の世界

光届かぬ闇の世界

夜に生き、人の心の奥底に潜むモノ

光が届かぬ場所ならば、私はその勢力を増大させる

人間よ聞け！

人間の本質は光だけではない！

闇をも伴って人間の本質となるのだ！

人間は光と闇どちらも併せ持つ生き物よ！

包丁

我の名は包丁。この銃刀法違反の国において、使用の許された刀の一つである。

我の力をもつてすれば、野菜や果物の皮を剥き、実を切る事など容易い事よ。

ある者は店で、ある者は厨房で、ある者は家庭で我をふるいて、料理を作り、デザートを用意する。

しかし、自らの命を殺める為に我を使うでないわ！！

他者を殺める為に我を使うでないわ！！

それは、我の本来の目的にあらず。我がこの世に命を受けた理に叶っておらんからの。

注意して使用されよ。

大阪の信号機

本当の信号機の意味は、青は注意して進め。黄色は注意して止まれ。赤は、止まれ。

やねんけど、大阪の信号機はちよつとちゃうねん……。

青は、進めやねんな。

黄色は、急いで進めなんや。何でか言うたら、黄色で止まってみ後ろから『ドン！』って当てられて

「何止まっとんのじゃボケエ！ ワレのせいでワシの車、凹んでもうたやないか！ どないしてくれんねん！」
つてなるからな。

で、赤やねんけど、赤に変わった瞬間に急いで進めやねん。これも何でか言うたらか？ これも黄色と同じや。

「おいおい、兄ちゃんどこ見て走ってんねん。よお見てみ、今赤やろが！ 赤になったら急いで行けへんかったら、ワシが後ろからぶつかってまうやないかい！ 分かってんのか！」
つてなるからやねん。

大阪が車両事故件数多いの何でか、想像つくやろ。ハア、嫌なるわ。

まあ、多少大袈裟に言うたけどな……。

紙パック式掃除機

紙パックに余裕がある間はきちんとゴミを吸いますよ。

畳の上でも、じゅうたんの上でも、カーペットの上でも、フローリングの床の上でも、スイッチ一つで切り替え出来ますしね。

でも、一つだけ約束して下さい。私はゴミを掃除する為の掃除機ですので、ゴミ以外のモノは吸わないで下さいね。

ああ！ 言ってるそばからゴキブリなんて吸ったら！ 私の中で繁殖して紙パックいっぱいが増えて、とんでもない事に！！

もうダメ。考えただけでも気持ち悪い……。

杖

僕の役目は足の不自由な方のもう一本の足になる事。

僕の役目は足の不自由な方の支えとなる事。

僕達、いろいろな種類はあるけれど、皆同じような目的でしょうと言われる。

普段よく見掛ける一本の杖は、それなりに足のしつかりした方用。見た事ある人もいると思うけど、脚が三本や四本になっているのは、手元も多少不自由な方用。

用途は少しずつ違うけど目的は皆一緒だよ。

足の不自由な方のもう一本の足になる事。

『くら！　そこでチャンバラしない！』

雨傘

今日は雨

僕の出番がやってきた

雨の日には、僕を使って出掛けてね

君に雨が当たらないように守ってあげるから

さあ！ 出掛けよう！

僕を片手に持って

風の強い日には両手で持ってね

ああ！ 裏返しに持ったらダメだよ！

自転車乗りながら、持ったらダメだよ

骨が

僕の骨が

僕の骨が折れてしまう！

僕の骨が折れてしまうよお！

いくら帰りに雨がやんだからって杖にしないでね

こらあ！ チャンバラするなあ！

骨が折れるって！

骨が折れるって言っているじゃないかあ！

ランドセル

一年生になったから 一年生になったから 友達百人出来るかな

一年生になったら、僕を初めて背負って学校に行く。

小さな体に大きな僕を嬉しそうに背負って学校に行く。

真新しい僕達は大事にされて、新一年生の一番最初の友達さ！

それが……時間が経つにつれて……。

二年生で扱いが乱暴に

三年生で『うわあ！ 僕を投げないで！』

四年生で『踏むなあ！ 投げるな！』

五年生になったら、あれ？ 僕の存在は？ 学校行く時連れて行って。

六年生になったら、もう僕は物置の中。

あんなに嬉しそうに背負ってくれていたのに！

あんなに嬉しそうに背負って学校に行っていたのに。

六年前は一年生の一番の友達だった筈の僕は、いつの間にかやら、物置の中。踏まれて、蹴られて、踏んづけられて、ボロボロになって物置の中。

でも……いいよ。君もこんなに大きくなっただんだからさ！

こたつ

オールシーズンの使用頻度が一番高いのはワシをおいて誰がおると言っのじゃ！

エアコンなど、空気は乾燥するわ、夏やら冬にしか活躍の場がない。

しかしわしは昔よりオールシーズンの使用頻度を誇るのじゃ。

冬は布団を掛けて、家族で囲んでミカンを食うたりしての。一家団欒にはわしが必需品という訳じゃ。

冬が過ぎれば、布団を外してテーブルとしても使える。ワシを囲んで今度は食卓に早変わりじゃ！

どっじゃ！ お前さん達には真似出来まい！ ホーホッホッホ。

レトロゲーム機

次世代ゲームハードが次々と生み出される今日に至り、最近僕を一部のユーザーが求めている。

昔は一世を風靡した僕達だけど、今やリサイクルショップの隅に飾られている。

ファミコンやメガドライブ、PCエンジンやプレイステーション。他にもいろいろあるんだけど……。

最近になって、ファミコンのゲームソフトを遊べるハードや携帯式ハードも生み出されているらしい。

また、一世を風靡する日が来るのだろうか……。

まあ、一部マニア向けなんだろうけどね……。

消しゴム

紙の上をこすって、こすって、こすられて。僕の身体はだんだん小さくなっていく。

書いた文字を消すのが僕の役目。それは分かっているんだけど、文字を消す度、僕の身体は縮んでいく。

元々大きかった僕の身体も、こすられるうちにだんだん小さくなっていき、小さな小さな欠片になっていく。

ハサミで切られたり、鉛筆で穴を開けられたりする事もあるけれど、もっと悲しいのは……。

『最後の小さな欠片になっても使って下さい！』って事。

飴

暗い窮屈な部屋の中からパアア！ と明るい世界に運び出された瞬間！

私は、また暗いジメジメした空間に放り込まれる。

ジメジメした空間の中をあっちこっちに転がされ、だんだん身体が小さくなっていく。あっちこっちに転がされ、あっちこっちに転がされ、どんどん私は小さくなる。

時々、硬い物にカツ！ と当たる事もある。その時「痛っ」と声が出る。

でも、でも、お願いだから、その硬い物で碎かないで、最後まで味わって舐めて欲しい……。

義歯

私の名前は義歯。平たく言うと入れ歯という物です。

私は歯の無い方の口の中に入り本物の歯の代わりを致します。

歯茎や口腔内に隙間が出来るとそこから食べ物が入り込み、装着者に違和感を与える事もありますが、皆さん私の事をそれは大事に使用してくれます。

私の仲間には部分義歯（部分入れ歯）というモノもおりますが、コイツはちよつとした曲者で、本物の歯に金具で取り付ける為に、本物の歯を傷めてしまう事もあります。

ただ、使用されている方々にお願いがあります。私達は非常に壊れ易い存在です。高価なモノですので、取り扱いには十分注意して下さい。

ボールペン

オイラは昔、キャップ式やった。

その頃は、キャップをきちんと止めて、もらわないと、先端が乾いて使いモノにならなくなってしまった。

でも、最近はノック式とか、可愛い仲間が増えてきて、随分と使い易くなってきた。

その代わりに、みんな気変わりが早過ぎる！ もっと大事に使って！

インク残ってるうちに、もう違う仲間のトコロへ行かないで……。

オイラはインクが残っていたら、使えるんだ！ たまに、インクが出なくなる仲間もチラホラというけど……。

時計

私の仲間は沢山いるよ。

置き時計でしょ。目覚まし時計。腕時計に、鳩時計。掛け時計もあるし、振り子時計っていうのもいるよ。

でも、最近は強敵が出現！

携帯電話！ 時計としての機能もあるし、目覚ましのアラーム機能もある。普段から持ち歩くから腕時計の代わりにだってなっている。私達、時計には無い、万歩計の機能のついた携帯電話もあるらしい。

でも、生活の中で時間って大切でしょ。

だから、私達を身の周りに置いて下さい。

部屋の中には置き時計や目覚まし時計や掛け時計。

出掛ける時には腕時計。いつも、持ってた損はないと思うのだけ
どなあ……。。

灰皿

僕はお皿の名前をもらったゴミ箱

時々、用も無いのに肩をトントンと叩かれる

肩を叩かれる度に身体の上に熱い火の粉を降り注がれて

「熱い！」

「熱い！」

つて言っても聞いてくれない

火の粉が降り注がれるのが止むと、熱い火の塊を押し付けられる

「熱いいいー！」

つて悲鳴をあげるけど、そのまま火の塊が付いていた棒を僕の中に置いていく

僕の名前はお皿が付いているけれど

食べ物に乗せる事なんて無い

別名『吸い殻入れ』なんて言われてる

電柱

ワシの身体は電気を通さない。

だから道の端っこに立っていても、なぐんの心配もいらん。

道の端っこに立って、頭の上で電気の通る線を支えておる。

道にその線が垂れ下がらんようにな。

仲間が順番に立っており、絶対に電気の通る線を下には下ろさない。

家やマンションや会社の必要な所に繋がっておるのじゃ。

これこれ。ワシはマーキング専用の棒じゃないぞ。そのような所で小便をするな。

ってオッサン！ 貴様はマーキングではないであらう！

桜

僕は桜。春になると僕の足元には沢山の人達がやってくる。

みんな、嬉しそうにお弁当を持って、お酒を飲んで楽しそうに笑ってる。

僕はそんな春が好きだ。お酒の中に花びらを一枚入れてみる。

お酒を飲んでいる人達はさぞかし、嬉しそうにする。

そんな人達を見て僕も嬉しくなって、いっぱい花を咲かせる。

でも……風が吹くと花びら達は散っていく。

そして、飛び去った花びら達と共に、僕の足元の人達も去っていく。

また、来年待ってるからね。

煙草

丁寧に体をさすってくれて、あなたの口にくわえられる

お尻に火を付けられて、熱いと思っているのも束の間

『ああ！！ そんなにキツく吸わないで！！』

私の唇を激しく吸うと、あなたは唇を離し、あなたの口から白い煙を吐き出す

そしてまた、私の唇を激しく吸ってくる

あなたに吸われる度にお尻が真っ赤に燃えるけど、きっとこれは私
があなたに燃えているから

そしてあなたは、また私の唇を奪って激しく吸って白い煙を吐き出す

そんな事を何度も繰り返して私の体も熱く燃え上がった後

あなたは私をぐちゃぐちゃに潰す

あなたは私を冷たい水の中に捨てていく

『あんなに激しく私を吸ってくれたのに……、どうして！！』

スライム

俺は緑色のねちよねちよでぐちよぐちよの物体

平らなガラス板などにグチャッと投げつけられるとドロ〜っとなんかゆ
っくり降りていく

子供達は、このドロ〜っと降りていく感じがたまらないらしい

何度も何度も、平らな場所に投げつけられ、気が付くと体中、埃ま
みれになっていく

そうになったら、もうくつつかない

もうぐちよぐちよでもべちよべちよでもない

平らな場所に投げつけられても、くつつく事も出来ない
投げつけられた途端、下にべちやっとなんか落ちる

なあ、遊んでくれよ！

地球

人よ！ よくお聞きなさい！

この大地に住まうモノは人類だけではないのです

この海原に生きるモノは人類だけではないのです

人類は生息物の一部にすぎません

大地を汚し

海原を汚し

他生物を殺戮し

仲間である筈の人類を殺戮し

好き勝手に自然を破壊し

勝手な言い分で善人振るのはやめなさい

私の上で支配者を気取るのはやめなさい！

人よ！ 自然と世界と調和の道を選んではどうですか？

世界の中で他生物や同族と協力し、もっと穏やかな生活を送っては
どうですか？

それがあなた達の言う”エコ”なのではないですか？

進化し過ぎた生命よ

私の提唱を受け入れて貰えないだろうか……

地球（後書き）

作品のアイデアが浮かばなくなったので、とりあえずコレで連載を終了させて頂きます。

読んで下さっていた方々、本当にありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8658o/>

物に気持ち・心があったなら...

2011年1月26日12時31分発行